

# 羅針盤

KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL

教職を目指す学生・卒業生のために

# COMPASS

第125号 2017.11.25(土)発行

関西外国語大学  
教職教育センター

SCET+

*Be always passionate what you would seem to be!!*

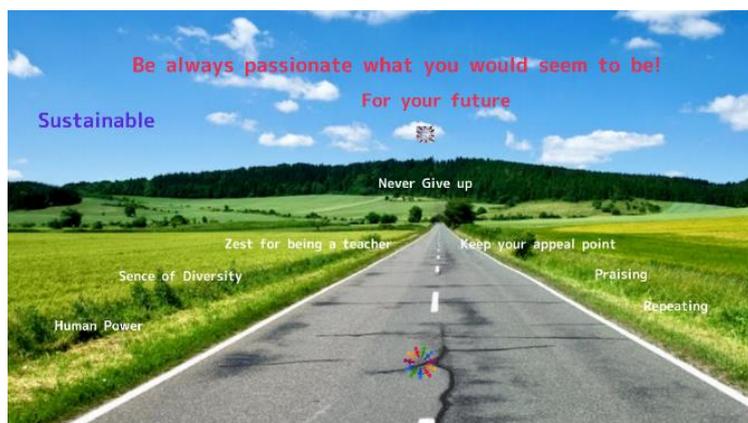
*Be always conscious of "Better than before"!!*

「常に自分らしく燃える人であれ！」

「常に自分らしく前へ！」

英語国際学部 教授 西村孝彦

*When you are asked, "What is the most important thing to be an English teacher?", "What's your answer?" Through my teaching experiences, "Sustainable Passion" is indispensable.*



関西外大卒業生の中学校・高等学校の英語教員のネットワークがすごい規模で全国に広がっています。また、関西外大の英語ができる小学校教員のネットワークが広がりつつあり、非常に期待されているところであります。関西外大で学ぶ教職履修者のみなさんは、「常に自分が教壇に立っている」姿を常に念頭に置き、「教員採用試験合格後も自分がどんな英語教員になりたいのか。」を常に意識し、「情熱・熱意」を持ってこの道を走り続けてほしいと願っています。

人は「叱られて育つ」「褒められて育つ」「あこがれて育つ」と言われます。自分のできることに焦点をあて、*Positive Thinking* で常に自分を褒め、あこがれる先輩を見つけ、*Intrinsic Motivation* を高め、仲間と努力し続ければ、夢は叶います。「夢は叶う」ものではなく、「叶える」ものです。そこには *Strong Willpower* が必要です。

人は「叱られて育つ」「褒められて育つ」「あこがれて育つ」と言われます。自分のできることに焦点をあて、*Positive Thinking* で常に自分を褒め、あこがれる先輩を見つけ、*Intrinsic Motivation* を高め、仲間と努力し続ければ、夢は叶います。「夢は叶う」ものではなく、「叶える」ものです。そこには *Strong Willpower* が必要です。

関西外大の教職履修生のみなさんには「夜スペ」「サイスペ」の仲間がいます。その仲間が今後、お互いを支え合えるネットワークとなり、それぞれが高め合える存在となります。

また、学研都市キャンパスでは毎年月一回のペースで「ようこそ先輩」と題し、教員として活躍している卒業生を招いて講演を聞く取り組みを推進してきました。常にあこがれの先輩の姿を

頭に描き、*Intrinsic Motivation* を高め、*Cooperative Learning* でその目標を達成しましょう。

最後に *Be always passionate what you would seem to be!! Be always conscious of "Better than Before* 常に自分らしく燃える人であってほしいと願っています。常に前を向いて自分らしく走り続けましょう。

## ～羅針盤 125号 目次～

教員採用試験合格者の声	…2～4頁
☆学生人材バンク活動報告☆	…4～10頁
★今後の学生人材バンク活動予定★	…11頁
編集後記	…11頁
シリーズ24「心の窓を少し開いて！」	…12頁

### 教員採用試験合格者の声

前号に続き、2018年4月から教諭になることが決まった学生に、これまでの学生生活とこれから先の人生の通過点として、手記をまとめてもらいました。

外国語学部 英米語学科 4年生 堀田真帆さん

私は岡山県で合格を頂きましたが、正直授業で先生方がする現役合格した先輩の話や実習事前ガイダンスでの現役合格者のお話を聞いたときに心が折れそうになる事が多々ありました。なぜなら、たくさんボランティアをしていたり留学経験があったり、英語力が高かったりと「今更先輩のようにはなれへん」と思っていたからです。しかし、意地張りの私は、だからこそ「ボランティアもしていない、英語力も高くない、それでも絶対に現役で合格して自分が来年ガイダンスに参加して私のように諦めかけている後輩に私でも合格したぞ」と伝えたかったのです。そこで次の3点の心構えがあったので私は現役合格し、合格者として話をするという夢を叶えました。

1点目は何をするかではなくどう自分のものにするか、です。私はボランティアを1つもせずに教採に挑みました。もちろん、ボランティアをする事は面接で自分の経験として話す事ができますが、それはボランティアだけでなくアルバイトや実習でも得ることができます。それらを経験する中で自分が何を学び、どう自分のものにするかが重要です。皆がやっているからボランティアやろうかなと思うくらいなら今やっているアルバイトを一生懸命し、教育実習では現場でしか学べない事を全力で学ば

うと思いました。実際に私はアルバイトや実習での経験を自分の言葉で話し、面接で高得点を取ることが出来ました。

次にONとOFFの切り替えです。私は4回生の4月半ばから勉強を始めましたが、それからは毎日7時半に登校し閉館まで教採の勉強をしました。私は一般・教職・専門教養のすべてを勉強しなければいけません。一般・教職教養は全国の過去問を何周もしたり、専門教養は受験地の過去問を分析し傾向を徹底的に調べました。しかし、遊ぶ時は思い切り遊ぶ事が最高の息抜きになり集中力に繋がりました。ON・OFFの切り替えで効率よく勉強できました。

3点目は時には仲間と先生に頼る事です。これは教採を乗り切るために最も重要だと考えます。教採は1人で立ち向かうことはとても苦しく、行き詰った時、悩んだ時、辛い時に助けてくれるのは仲間や先生です。時には仲間と飲みに行ったり先生方に話を聞いてもらうだけで気持ちが落ち着きます。教採は長い戦いなので共に本気になれる仲間を1人でも見つけてください。

最後に、私が一番伝えたいことは「気持ち」です。絶対に現役で合格してやる！という気持ちで実習や教員採用試験も乗り切ってください。いつでも相談に乗ります！

外国語学部 英米語学科 4年生 吉永亜美さん

私は、堺市の教員採用試験に合格することができました。私からは3つ「やっておいてよかったこと」をみなさんに伝えたいと思います。

1つ目は、「はやめに情報を集めること」です。私は去年の8月末から今年の3月にかけて、堺市の教師塾に通っていましたが、この教師塾の募集は3年次の春にありました。4・5月に入塾願書を提出、6月に選考、8月から講座がスタートというスケジュールでした。この情報ははやくから知っていたので、選考のための面接練習などができました。

2つ目は「試験に有利になるものに挑戦する」ということです。先ほども述べた堺市の教師塾は、卒業できると採用試験の一次筆答が免除になります。他の自治体もそのような教師塾や、大阪府はチャレンジテストがあります。また、TOEICや英検などの加点対象になるものに挑戦するのもいいと思います。たとえ、そこを受けていい結果が出なかったとしても、勉強したことはきっと採用試験への勉強につながります。

3つ目は「いろいろな経験をする」です。私は部活の吹奏楽を大学でも続けていたため、1次面接・2次面接ともに部活のことばかり聞かれました。私の周りの人も部活動やボランティア、留学など、本人が経験したことについて聞かれた人が多かったです。もちろん、面接のために経験する訳ではありませんが、たくさんの経験をすれば、そこから様々なことを学んだり、自分が成長するきっかけになったり、「ぜひ子供たちにも伝えたい」と思うことを発見できると思います。

最後に、関西外大には夜スペやサマスペなど、私たち採用試験を受験する人へのサポートがあります。これらのサポートは他の大学にはあまりないので、どれだけ私たち関西外大生が恵まれた環境にいるかが分かります。ぜひみなさんもそのようなサポートを借りながら、友達と先生方と一緒に合格を目ざして頑張ってください。

和歌山県の教員採用試験を受け、無事に合格の結果をいただいてから早一か月がたちました。今回は試験から少し経った今だからこそ、自分の合格に対する印象、また採用試験受験が私に与えてくれたことについて、お話しできればいいなと思います。

私は、自分の合格について、「勝ち取った」というよりは「仲間がいたから乗り切れた」という印象を持っています。もちろん勉強は早めに始めましたが、それも先生方の助言があったからこそ。勉強は大学の先生や友達を頼って、実技は大学の先生や実習校、母校の先生を頼って、精神面は友達や家族を頼ってと、とにかく来たチャンスに必死に食らいついて、たくさんの人に支えてもらって当日まで突っ走りました。今から受験を考えている皆さんには、今あるご縁を大切に、優先順位をしっかりとつけて、日々できる努力を重ねてほしいと思います。

さて、採用試験受験が私に与えてくれたことについてですが、書き出せないほどたくさんあります。辛い日々を乗り切った自分に対して少し自信がつかましたし、一緒に頑張った仲間はかけがえのない存在です。しかし、一番の収穫は、来年春から子どもたちの前に立つ心づもりができたことだと感じています。試験突破に向けて、得意なことも苦手なことも同じように準備をしてきました。歌やピアノの練習は本当に楽しかったし、勉強や体育実技の練習は逃げ出したいほど辛かった。得意なことを褒めてもらえるのは嬉しかったし、苦手なことを頑張っている姿を認めて応援してもらうのも、本当に励みになりました。将来私が出会う子どもたちにも、私と同じように得意なこと、苦手なことがあります。採用試験突破に向けて準備した日々は、私に子どもたちの日常を追体験させてくれたのかもしれない。だからこそ、子どもたちの持ち味を汲んで、子どもたちが得意や好きを伸ばす、苦手や嫌いに向き合っ乗り越えるサポートをしたいと、改めて思えるようになりました。

採用試験受験は、その合否に関わらず、その人にとって大切な何かを与えてくれるものだと私は感じています。ご縁を大切に、できる努力を精いっぱい重ねてください。

## ——☆学生人材バンク活動報告☆——

### 1、『楠京阪幼稚園 Halloween』

10月31日(火)の午前中に、楠京阪幼稚園から年長の園児約170名が外大を訪れました。手作りのjack-o-lanternの飾りを頭に被り、全員で座っている姿は壮観でした。このプログラムをサポートし、劇や歌などで園児を大いに盛り上げてくれた学生に、感想を聞きました。



Through this volunteer, there are several things I've learned. One is what I had trouble with, which is to say, to organize the plan with not only Japanese students, but also foreign students. Since this was my first time doing Halloween

volunteer in four years, I thought it would be so easy just to make a plan at first. However, my expectation was betrayed quickly because I had my job as "the organizer". It sounds like a simple job, but to organize the event that has been lasting for a long time was more pleasure to me than I thought. On the other hand, I found myself being enthusiastic about this not to fail. Two is what I thought I did well. As I said in the beginning, it was my first time to organize this event, so the first thing I did was trying to connect people. Since it was for both Japanese and foreign student, I send an email to gather people (especially foreign students) around for our short meeting before the event so that I could tell a little detail.

This was the best decision because without having this short meeting, it would have been a lot messier. This meeting helped not only me but also the participants to understand each other and created the



great atmosphere. Although half of the participants showed up in the short meeting, on the day

of Halloween, there were almost twice of participants showed up. I was surprised, but there were no single time to waste for that. I started to decorate and make the room we are using for the volunteer better.



Finally, the time has come. As soon as it passed the arrival time, many kids started to show up, and the outnumbered kids and their energy filled up the room in such intense tension. The first thing we did was a short playing that we only practiced a little bit before

the show. Nonetheless, because of the help of lovely audiences and our passion, the short playing went really well, a perfect way to begin with. After that was a dancing time, which was also went quite well. Rest of the activities was a bit busier, but ended up in success. Third is what I thought we could do better or improve. Despite the tight schedule and short time, I am really impressed with how many people participated in this to make it great. However, because there were only a little time during the event, I found some people didn't know what to do and standing there trying to do something. That's why I think it would be better if we divide people into a small group and give them each jobs to do, then everybody would have something to do, and in that way, we will all be able to feel achievement and satisfaction. There are my reflections on the volunteer. I hope I can do it again next time.

今回、幼マナ(編集注:楠京阪幼稚園 Halloween の通称)において、大変だったことや良かったと思っただことについてまとめていこうと思う。まず、大変だったことは、準備時間の短さである。2週間ほどしかない中で、園児たちに配るものや仮装の準備、また後輩たちをまとめて本番を迎えるというのがかなり忙しかったので、もう少し早めに準備などをできると、より良い活動になったのではないと思う。また、今回はボランティア経験が全くない1回生たちが多かったのにも関わらず、「後輩たちに仕事を振り分けたりすることで、このボランティアに積極的にに関わり、またそこから様々なことが経験できる」という雰囲気を作るまでに至らなかったのも反省すべき点であると思う。



良かったことに関しては、留学生を中心にボランティアを運営することができたという点である。全員とまではいかなかったが、留学生たちを巻き込み、また、彼らを中心にアクティビティなどを進めることができ、園児たちも楽しみながら英語を使うことが出来たのではないかと感じる。次回からも今回のように留学生たちのためのミーティングを行い、そこに大学生たちも参加し、事前に大学生と留学生がかかわれる場があったら、本番もより良い出来になると思う。そして、留学生にしっかりとアクティビティの運営をできるように伝えておくと、大学生は全体を把握するなどの外部対応の役割にまわることができるかもしれないと感じた。外部対応に関しては、今回は2人だけだったが、3~4人いると良さそうだった。何より、自分たち大学生、留学生、そして園児たちが全員で楽しめたことが一番良かったことだったと感じる。

最後に、幼マナに関して言えることは、どの学年であろうが、参加すると良い経験になるし、園児たちと全力で楽しめると思う。もし、将来幼稚園児の先生にならないとしても、まったくもってこの経験が無駄になるとは思わない。もし、時間があるなら参加して、楽しみながら様々なことを学んでほしいと思う。



## 2、『交野高等学校 English One Day Camp』

交野高等学校の1年生9名が11月4日(土)、ICCにて「English One Day Camp」を行いました。英語漬けの1日を過ごすという、今年で6回目のプログラムです。もともとは、交野高等学校に赴任することになった外大の卒業生が、「母校の外大で生徒たちに学外での英語体験をして欲しい」との思いから企画し、校長先生や英語科の先生方の協力のもと、実現したプログラムです。普段の授業で学んだ英語をより一層使えるチャンスとして、高校生も気合を入れて参加しています。そんな高校生を、外大生はどのようにサポートできたのでしょうか。学生2人に感想を聞きました。

外国語学部 英米語学科 2年生 森川沙紀さん

11月4日に、交野高校 English one day camp に参加しました。このボランティアは、交野高校の高校生が英語漬けの1日を関西外大で過ごすというもので、私たち大学生は高校生のサポートをしました。この活動を通して、私は大切なことを2つ学びました。

1つ目は、生徒は私たちが誠心誠意を尽くして接すれば、一生懸命応えてくれるということです。昨年から様々なボランティアを経験させて頂いていますが、今回の活動は特に本番までの時間が短く、準備に時間を割くことがなかなかできませんでした。しかし、当日、先生方や留学生と協力し、真剣に高校生と向き合うことで、高校生の積極性が増し、最後のプレゼンテーションでは、一緒に練習した甲斐あって、とても素敵なパフォーマンスを見せてくれました。

2つ目は、自信を持つことの必要性です。この活動中、私が意識していたのは、サポーターである限り、臆することなく自信を持って英語を使うことでした。もちろん、間違ふことへの不安は終始ありましたが、こちらが不安を持てば、高校生も同じように英語を話すことを躊躇してしまいます。そのような空気を出来るだけなくそう、高校生にも英語を話すことに自信を持って欲しいと思い活動することで、高校生の感じる言葉の壁を少しでも取り除けたのではないかと思います。

今回経験したことは、今後教員を旨ざしていく上でとても大切な基盤になると感じています。この活動に携わった、交野高校の方々、教職教育センターの方々大学生、留学生のみなさん、ありがとうございました！

### 3、『小学校いきいきプログラム』

英語活動を学生自身が1から考え、指導案、教材、発問の仕方、英語の活用法など、試行錯誤を繰り返しながら作り上げていく、この『小学校いきいきプログラム』。悩みは、活動そのものだけでなく、グループであるがゆえにコミュニケーションや参加に対する姿勢など、多岐にわたります。それでも、児童は毎回楽しみにしてくれている様子です。彼らの期待に応えられるよう、活動しているメンバーたちは、どのように改善を重ねて行けるのでしょうか。

英語キャリア学部 英語キャリア学科 小学校教員コース 2年生 阿部 夏輝さん

いきいき活動では、毎月近隣の小学校に訪問し、月のテーマに沿った英語を教える活動を月2回、土曜日に行っています。私は土曜日に授業があるので活動の本番自体には基本的に参加できないので、主に活動内容の指導案を考えたり、授業で使用する教具の制作を行っています。長期休暇など授業のない日に参加できる日は、児童の楽しそうな様子を見ることができるととても嬉しいです。

9月に初めていきいき活動に参加した時は楽しかった反面、とても大変で、改めて児童に英語を教えることの難しさを考えられるようになりました。実は、活動に参加するまでは児童の実態をあまり理解できておらず、児童のレベルに合っていないような活動ばかりを考えてしまっていたことが多かったのですが、活動の本番に参加した後、実際の児童の様子がわかり、最近では「この活動なら児童が楽しんでやってくれるかな？」など、吟味しながらグループで協力して指導案を制作しています。グループで指導案を考える時メンバー全員が私にはないたくさんのすばらしい意見を言ってくれるので、感心することが多く、いつも勉強になっています。

教具の制作も毎月たくさんの量があって制作するのがとても大変ですが、児童の喜んでくれる姿を想像すると、多少大変でも頑張ろうと思えるようにもなりました。私は手先が不器用なので、最初のほうはあまり上手く制作できなかったのですが、たくさん作っていくうちに、少しずつですが上手く制作できるようになりました。

いきいき英語活動では、教員になるうえでたくさんのことを学べ、自分を成長させてくれます。みなさんもよかったらぜひ参加してみてください。

あと残り3か月ほどしかこの活動がありませんが、悔いの残らないように全力で取り組んでいきたいと思います。

英語キャリア学部 英語キャリア学科 小学校教員コース 1年生 菅野晴菜さん

私は、将来小学校教員を志すうえで、少しでも子供たちと直に関わる経験を積んでおきたいと思い、いきいきプログラムへの参加を決めた。自分たちだけで指導案を作り、活動を行うということで、ある程度の大変さは覚悟していたが、その大変さと責任は予想以上であった。子供たちは、本来なら休みである土曜日に、わざわざこの活動のためだけに学校に来てくれているから、中途半端な活動

をするわけにはいかない。必死にアイデアを出し合って、試行錯誤を繰り返し、何度も書き直して、やっと、1つの指導案が出来上がる。それだけ力をかけて作り上げた指導案だが、それ通りに活動が進むことはほとんどない。その時その状況に応じて対応する、臨機応変さが求められる。そして、当日の活動を円滑に進めるためには、計画性も大事だ。自分の意識の低さ、考えの甘さを毎度ひしひしと感じさせられる。

しかし、だからこそ楽しい。子供たちは、とても素直で、楽しい活動には楽しい、つまらない活動にはつまらない、と正直に反応してくれる。頑張って準備した活動が上手くいかなくて心が折れそうになることもあるが、子供たちが笑顔で楽しんで活動してくれた時には喜びや達成感もひとしおだ。

この活動で学んだことは全てのことに生きてくると思う。たとえ教師以外の職業、例えば、どこかの企業に就職したとしても、責任感の必要性はもちろんのこと、新商品開発のアイデアや臨機応変さなどにもつながると思う。

この活動はボランティアであり、自発的に参加するものだ。誰かに何かを強制されることはない。だからこそ、中途半端に取り組むか、何かを得ようと思って取り組むか、苦痛にも、有意義な時間にもなり得る。全ては自分次第だ。

## ————★今後の学生人材バンク活動予定★————

教職教育センター前掲示板や外大メールも確認してください。

・小学校いきいきプログラム：12月9日(土)枚方市立平野小学校  
12月16日(土)枚方市立山田小学校

・海外教職インターンシップ申込締切(バンクーバー・セブ島共に)：12月15日(金)  
質問および申込書の提出先は次の通りです。

(株)アーク・スリー・インターナショナル 関西外大中宮キャンパス内店  
関西外大学研都市キャンパス内店

・学生人材バンク交流会:12月12日(火)・20日(水)12:20-13:10 6105 教室

平成29年度の学生人材バンクの活動について紹介します。また、実際にプログラムに参加した(している)学生が、プログラムを越えてお互いの活動報告を行います。興味はあつたけれど今年参加できなかった学生、来年参加したいと考えている学生は、ぜひ来てください。質疑応答もありますので、気軽に立ち寄ってください。入退場自由です。参加希望の学生は人数把握のため、前日までに教職教育センターにてサインアップしてください。

報告予定のプログラムは次の通りです。(変更になる場合もあります。)

- ・教職インターンシップ(KTAP)
- ・小学校いきいきプログラム
- ・四條畷高等学校「国際交流キャンプ」
- ・交野高等学校「English One Day Camp」
- ・平野フェスティバル(お化け屋敷)
- ・子ども大学探検隊・中高生を対象とした事業(フォトロゲイニング、GS・CA体験)
- ・海外教職インターンシップ(バンクーバー)
- ・幼稚園 halloween

——編集後記——

"You're welcome."⇒「どういたしまして。」

一般的には、このように訳されることが多いですが、みなさんはどのように言いますか。考えてみると日本語では「どういたしまして。」と言うことはあまりないような気がします。親しい間柄では「ううん。」「いいよ。」「いえいえ。」と言ったり、また、謙遜の文化も相まって、頷き、言葉にならなかつたりします。一方、"You're welcome."にもたくさん表現があります。"Welcome." "You're very welcome." "You're more than welcome." "You're most welcome." 他にも "Anytime." "My pleasure." "No problem." "Don't mention it." "It's nothing." など日本語と同様にたくさんあります。

どちらも自然に使えるとカッコいいですね。

「かまへん、かまへん！」

## シリーズ②④「心の窓を少し開いて！」

短期大学部 教授 明石一郎

【なぜ、教育という仕事を選んだのか】

学校の1年は早い。

- 満開の桜の下をかわいい1年生がくぐり、運動会の練習で始まる「春」。
- プールの水しぶきやキャンプの歓声、セミの鳴き声の中で過ごす「夏」。
- 遠足や修学旅行、秋祭りや音楽会、紅葉狩り登山にドキドキする「秋」。
- 餅つき大会、クリスマス、卒業式、年度末の学習まとめに忙しい「冬」。

四季折々に草花が咲くように、子どもたちは「個性」という彩りと香りと佇まいを持って成長する。教師は子どもとの新しい出会いと別れの中で「喜・怒・哀・楽」を共に重ねて日々を過ごす。

エベレスト登頂に挑戦し、山頂近くで消息を絶った登山家※マロリーは、「なぜ、あなたは山に登るのか」と問われて、「そこに山があるからだ」と答えたという有名な話があるが、「なぜ、あなたは教育という仕事を選んだのか」と聞かれれば、「そこに子どもがいるから」、そして「子どもが好きだから」と答えるだろう。

しかし、ただ単に「子どもが好き」というだけでは教師の仕事は成り立たない。教師は、一人ひとりの子どもの人格の完成をめざし、子どもの「学び」と「育み」をしっかりサポートし、個々の成長と発達を促す「専門職」であるからだ。

そのためには、教師も常に自己成長をしながら、一人ひとりの子どもを正しく理解し、将来を見通し、知・徳・体のバランスある成長を導かなければならない。子どもに対する深い愛情（優しさと厳しさ）と専門的な指導技術と実践・行動力が伴って、初めてその職責が果たされるのである。

※ジョージ・マロリー（1886年-1924年）登山家。イギリス人

ところで、「楽しい学校」とは何か。次の三つのことが大切と考える。

一つは、毎日の授業の確かな学びだ。わかることは大きな喜びである。

二つは「ぐっすり寝、しっかり食べ、すっきり出す」などの生活習慣の定着だ。目覚めは自立のスタートであり、朝食と排便は健康のバロメーターである。

三つは、仲の良い友だちの存在だ。学校は友だちと一緒にいるから楽しい。

そして、さらに言えば、保護者や地域の方々との信頼関係が教育の基本である。学校・家庭・地域が一つになって「子どもたちの笑顔が輝く楽しい学校」が実現する。